



日本を代表する映画女優である吉永小百合さんは、1959年、松竹大船にて『朝を呼ぶ口笛』で映画デビューしました。1960年、日活に入社するとともに、浜田光夫さんとのコンビで『ガラスの中の少女』に初主演、瞬く間に青春スターとしての地位を確立します。代表作『キューポラのある街』では史上最年少にてブルーリボン賞主演女優賞を受賞し、高い評価を得るとともに、その後も多くのファンに愛され、日活映画を代表する女優となりました。80年代以降は、『華の乱』、『北の零年』などの大作に主演、日本アカデミー賞最優秀主演女優賞をはじめとする数々の賞に輝かれています。そして、最新作『ふしぎな岬の物語』（成島出監督）では初の企画・主演を務めるなど、映画愛に満ちたそのたゆまざる歩みは、今も多くの人々を魅了し続けています。

本企画展は、これまでの代表作である14作品の映画上映とともに、関連資料の展示で「映画女優 吉永小百合」の足跡とその魅力に迫ります。ぜひお楽しみください。

最新作映画『ふしぎな岬の物語』より
©2014「ふしぎな岬の物語」製作委員会

『伊豆の踊子』(1963)ポスター(左)
『愛と死をみつめて』(1964)ポスター(中)
『キューポラのある街』(1962)ポスター(右)
(東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵)

特別展観覧料金 ()内は団体料金
一般300円(210円) / 小・中学生150円(105円)

総力：小笠原正勝、松竹、世界文化社、東映、東京国立近代美術館フィルムセンター、東宝、日活、マガジンハウス、三校、諸星日出男(五十音順・敬称略)



映画鑑賞料金 ※原券もあわせてご覧いただけます。一般800円 / 小・中学生400円

上映日：10月7日(火)～9日(木) チケット発売：9月20日(土)

霧笛が俺を呼んでいる

2回上映	1回上映	1回上映
10月7日	10月8日	10月9日
午前 10:30		
午後 2時	午後 2時	午後 2時

1960年 / 80分 / カラー / 35mm
監督：山崎徳次郎 共演：赤木圭一郎、戸川いづみ、葉山良二、西村晃
天折した日活を代表するスター、赤木圭一郎との共演作。日活デビュー2作目、当時15歳の新人女優として、その可憐な姿が注目を集めた。

上映日：10月10日(金)～12日(日) チケット発売：9月20日(土)

キューポラのある街

2回上映	1回上映	1回上映
10月10日	10月11日	10月12日
午前 10:30		
午後 2時	午後 2時	午後 2時

1962年 / 100分 / 白黒 / 35mm
監督：浦山桐郎 共演：浜田光夫、市川好郎、東野英治郎、菅井きん
錆物の街、埼玉県川口市を舞台に、貧しいながらも明るく真っすぐに生きる少女ジュンを演じた代表作。史上最年少にてブルーリボン賞主演女優賞を受賞。

上映日：10月21日(火)～23日(木) チケット発売：9月20日(土)

泥だらけの純情

1回上映	2回上映	1回上映
10月21日	10月22日	10月23日
午前 10:30	午前 10:30	
午後 2時	午後 2時	午後 2時

1963年 / 91分 / カラー / 35mm
監督：中平康 共演：浜田光夫、和泉雅子、小池朝雄、細川ちか子
チンピラやぐざに助けられた外交官の令嬢、次第に深まる二人の運命は…。44作品で共演した浜田光夫とのコンビによる青春純愛映画の名作。

上映日：10月24日(金)～26日(日) チケット発売：9月20日(土)

潮騒

2回上映	1回上映	1回上映
10月24日	10月25日	10月26日
午前 10:30		
午後 2時	午後 2時	午後 2時

1964年 / 82分 / カラー / 35mm
監督：森永健次郎 共演：浜田光夫、清川虹子、松尾嘉代、石山健二郎
三島由紀夫の同名小説の映画化。三重県の神島を舞台に、船主の美しい娘と純真で正義感の強い青年との思春期の恋を大自然のなかに描く。

映画鑑賞料金 映画鑑賞券のご提示で企画展もご覧いただけます。販売枚数に達した場合、当日券の販売はございません。一般800円 | 小・中学生400円 (記念館窓口、鳥森書店(鎌倉店)、たらば書房にてチケット販売)

上映日：11月3日(月・祝)5日(水)、6日(木) チケット発売：10月18日(土)

伊豆の踊子

2回上映	1回上映	1回上映
11月3日	11月5日	11月6日
午前 10:30		
午後 2時	午後 2時	午後 2時

1963年 / 87分 / カラー / 35mm
監督：西河克己 共演：高橋英樹、大坂志郎、十朱幸代、浜田光夫
ノベル賞作家・川端康成の名作の4度目の映画化。純真可憐な踊子と伊豆の峠で出会った学生との深い恋を、叙情豊かに描いた代表作。

上映日：11月7日(金)～9日(日) チケット発売：10月18日(土)

愛と死をみつめて

2回上映	1回上映	1回上映
11月7日	11月8日	11月9日
午前 10:30		
午後 2時	午後 2時	午後 2時

1964年 / 117分 / 白黒 / 35mm
監督：斎藤武市 共演：浜田光夫、内藤武敏、笠智衆、宇野重吉
自ら映画化を熱望し、公開当時、大ヒットを記録。軟骨肉體という異端に侵されながらも、その愛を貫いた“ミコ”と“マコ”の物語。

上映日：11月18日(火)～20日(木) チケット発売：10月18日(土)

愛と死の記録

2回上映	1回上映	1回上映
11月18日	11月19日	11月20日
午前 10:30		
午後 2時	午後 2時	午後 2時

1966年 / 92分 / 白黒 / 35mm
監督：巖間信雄 共演：渡哲也、中尾彬、浜川智子、佐野周二
広島を舞台に、原爆症を抱える青年と出会い、その死に立ちあう女性のひたむきな姿を演じ、原爆への静かな怒りを込めた感動作。

上映日：11月21日(金)～23日(日) チケット発売：10月18日(土)

映画女優

2回上映	1回上映	1回上映
11月21日	11月22日	11月23日
午前 10:30		
午後 2時	午後 2時	午後 2時

1987年 / 131分 / カラー / 35mm
監督：市川崑 共演：森光子、中井貴一、菅原文太、沢口靖子
女優・田中絹代の半生をもとに、新たな女性像を演じたという本作。市川監督の映像美と相まって「映画女優」としての一つの集大成ともなった。

上映日：12月2日(火)～4日(木) チケット発売：11月15日(土)

華の乱

2回上映	1回上映	1回上映
12月2日	12月3日	12月4日
午前 10:30		
午後 2時	午後 2時	午後 2時

1988年 / 138分 / カラー / 35mm
監督：阪本順治 共演：緒形拳、松田優作、池上季実子、松坂慶子
憧れの女性像でもあるという歌手・与謝野晶子。理想に満ち情熱溢れる大正期を舞台に、そのたくましく生き抜く姿を描いた文芸大作。

上映日：12月5日(金)～7日(日) チケット発売：11月16日(土)

長崎ぶらぶら節

2回上映	1回上映	1回上映
12月5日	12月6日	12月7日
午前 10:30		
午後 2時	午後 2時	午後 2時

2000年 / 115分 / カラー / 35mm
監督：深町幸男 共演：渡哲也、高島礼子、原田知世、永島敏行
なかにし礼の直木賞受賞作を映画化。三味線をかけては長崎一といわれた芸者愛八。歌と共にその無償の愛に生きた姿を描いた情願溢れる名作。

上映日：12月9日(火)～11日(木) チケット発売：11月15日(土)

北の零年

2回上映	1回上映	1回上映
12月9日	12月10日	12月11日
午前 10:30		
午後 2時	午後 2時	午後 2時

2005年 / 169分 / カラー / 35mm
監督：行定勲 共演：豊川悦司、柳葉敏郎、石原さとみ、遠辺謙
明治期、浪路から北海道へ移民団として渡った福田家。変わりゆく時代に生きる武士の妻・志乃を演じ、日本アカデミー賞最優秀主演女優賞を受賞。

上映日：12月12日(金)～14日(日) チケット発売：11月15日(土)

母べえ

2回上映	1回上映	1回上映
12月12日	12月13日	12月14日
午前 10:30	午前 10:30	
午後 2時	午後 2時	午後 2時

2007年 / 132分 / カラー / 35mm
監督：山田洋次 共演：坂東三津五郎、浅野忠信、椎い、志田未来
野上照代の子伝的小説を映画化。戦時中、夫の投獄という苦難のなか、2人の娘とともに明るく映画に生き抜いた“母べえ”を演じた。

上映日：12月16日(火)～18日(木) チケット発売：11月15日(土)

おとうと

2回上映	1回上映	1回上映
12月16日	12月17日	12月18日
午前 10:30		
午後 2時	午後 2時	午後 2時

2009年 / 126分 / カラー / 35mm
監督：山田洋次 共演：笑福亭鶴瓶、菅井優、加藤亮、加藤治子
女手ひとつで娘を育てた気丈な姉と周囲に迷惑ばかりかけ続けてきた弟。その再会と別れを、笑いと涙を織り交ぜて描いた「家族の絆」の物語。

上映日：12月19日(金)～21日(日) チケット発売：11月15日(土)

北のカナリアたち

2回上映	1回上映	1回上映
12月19日	12月20日	12月21日
午前 10:30		
午後 2時	午後 2時	午後 2時

2012年 / 122分 / カラー / 35mm
監督：阪本順治 共演：柴田恭兵、仲村トオル、森山未來、満島ひかり
湊かなえの小説を原案に、北海道の難島で起こった悲しい事故から20年、運命の再会を果たすかつての教師と生徒たちの情愛豊かに描いた感動作。